

3 YGAPMA-Z1C3

1
0 / 3

問 1 (1)

✓

→

要復習

日本で第3位のウは水力発電。
その安価な電力を利用するのは、
電力を大量消費する アルミニウム工業 である。

2
4 / 8

(2)

○ フランスは火力発電の燃料となる原油や石炭にとどまらず、
天然ガス、ウランが産出されるうえ、冷却用の水も豊富だ
からである。

→ フランスはウラン鉱を産出するが、
大部分は、輸入に依存している。
石油消費量制限と効率的な発電を目的とした。

↓
そのため、原子力発電に転換したことを明らかにしたい。(一2)
1973年の第1次石油危機が契機となったことも指摘したい。
(一2)

3
5 / 14

(3)

△ 指定語句 (輸出国・世界最大・エネルギー源) の欠落。(一3)

ブラジルは水力発電の比率が高いのである。(一2)
Eはオーストラリアである。

石炭が発電などの
エネルギー源 である。

○ C中国とEブラジルは、どちらも主に石炭を利用して火
力発電を行うが、C中国が、国内で産出した石炭に加え
て輸入した石炭も利用して発電をするのに対し、ブラジ
ルは国内で産出された石炭は発電に利用するほかにも、輸
出も行っている。

→ 産出量が 世界最大
であることを指摘したい。
(一1)

国内での消費量が大きいのである。

ブラジルの石炭産出量は
さほど多くない。

オーストラリア

オーストラリアは輸出量は
世界最大であることを指摘したい。
(一1)
↑
国内での消費量が少ないため、
余剰石炭を輸出するためである。
(一2)

3/3

問2 (1)

サウジアラビア

3/4

(2)

原油生産量を共同で計画し、自国の資源を守ろうとして
いる。

↓
そこで、OPECを組織していることを
指摘したい。(ー1)

8/8

(3)

↓
ドイモイ政策の重要な方針には
市場経済の導入も掲げられた。

ベトナムはドイモイ政策を行って、対外開放政策を行っ
たため、外国企業が積極的に油田を開発するようになり
輸出可能になった。

↓
商業的で大規模な開発であった。

【合格へのポイント】

<本問のポイント>

日本の原油輸入相手国の状況について理解できていますが、
発電方式を示した資料での国名判別に慣れておく必要があります。

<要復習>

主な国の発電方式とその背景を確認しておきましょう。
また、東大入試頻出の指定語句のある論述問題に慣れておくように。